

平成29年3月期 決算説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ
平成29年6月7日

東証1部
【証券コード：9366】



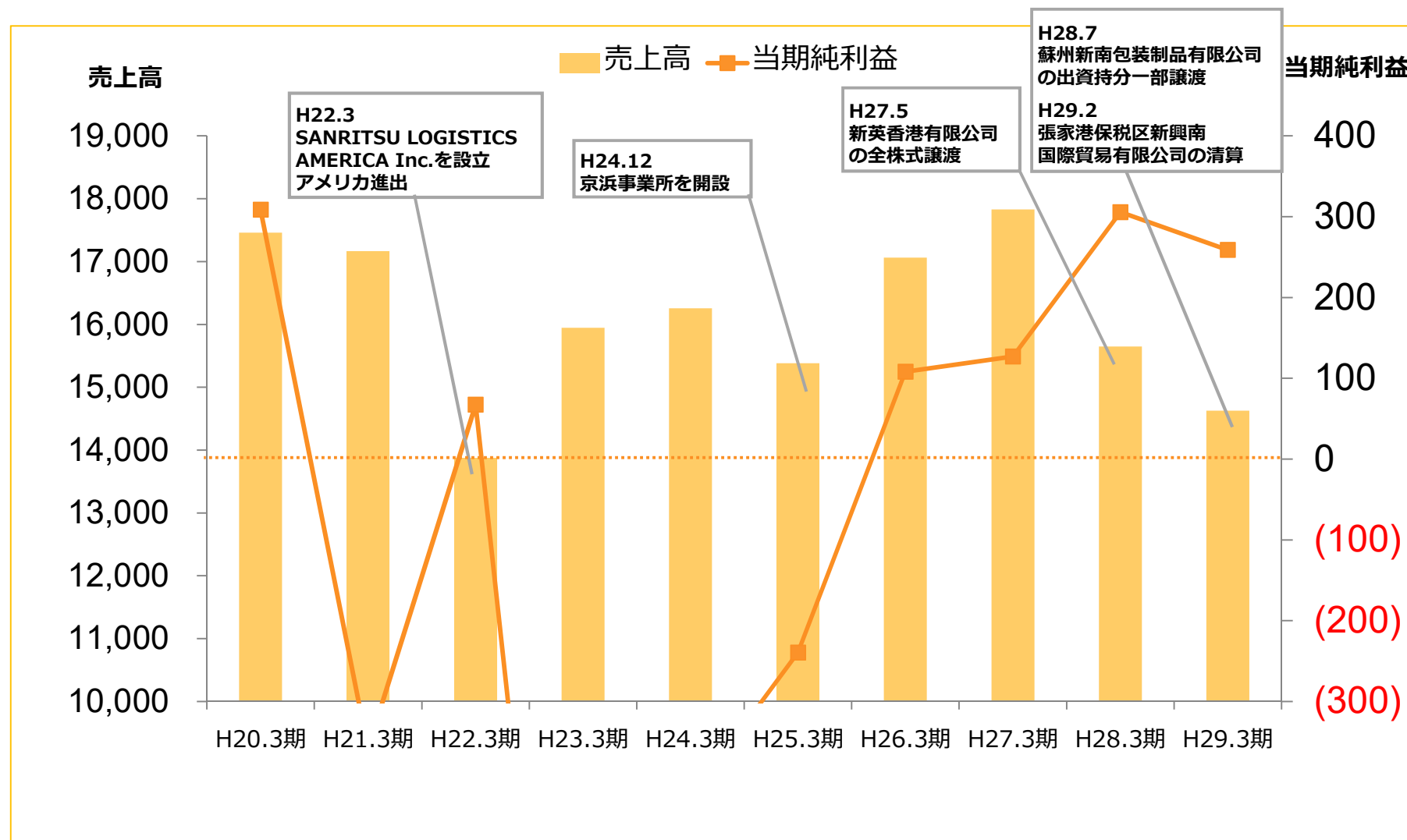
目 次

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 当社の概要 | P2 |
| 2. 平成29年3月期 決算報告 | P5 |
| 3. 平成30年3月期 決算見通し | P12 |
| 4. 中期経営計画と取り組み | P20 |
| 5. Appendix | P26 |

1. 当社の概要

当社の概要：業績の推移

(単位：百万円)



当社の概要：事業領域と取扱製品群別ターゲット

	庫内オペレーション ※1	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
小型精密機器 ※2	○	○	◎	○	○	△
大型精密機器	○	○	◎	○	○	△
医療機器	△	◎	○	○	—	○
工作機械	—	—	◎	—	○	○
その他	○	○	—	—	△	○

◎・・・強み、または経験値が高い事業領域
 ○・・・取扱実績があるが、他社との差別化までいかない事業領域
 △・・・取扱実績があるが、まだ弱く、強化していきたい事業領域

※1：庫内オペレーション…倉庫内入出庫作業やその管理

※2：「通信機器等その他製造」より表記を変更しました

取扱製品群別の主な特徴

- ◆小型精密機器／大型精密機器：
日系企業を中心に工場構内や近隣倉庫にて、顧客に密着した物流業務を展開
- ◆医療機器：医療機器製造業の免許取得と設備の整った倉庫をベースに、外資系企業を中心に日本における国内物流をサポート
- ◆工作機械：日・中・米各拠点とも大型設備を保有し梱包を実施、自社物流ライセンスで国際物流を展開

2. 平成29年3月期 決算報告

2-1.平成29年3月期 決算概要

(単位：百万円)

	H28.3期	H29.3期	期初計画	計画比 差異	計画比 差異率	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	15,647	14,626	14,730	▲103	▲0.7%	▲1,020	▲6.5%
売上総利益 (売上総利益率)	3,033 (19.4%)	2,875 (19.7%)	—	—	—	▲157	▲5.2%
営業利益 (営業利益率)	769 (4.9%)	627 (4.3%)	600 (4.1%)	+27	+4.5%	▲141	▲18.4%
経常利益 (経常利益率)	627 (4.0%)	478 (3.3%)	450 (3.1%)	+28	+6.3%	▲149	▲23.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	305 (2.0%)	258 (1.8%)	250 (1.7%)	+8	+3.5%	▲46	▲15.3%
1株あたり 当期純利益(円)	50.90	45.03	41.65	+3.38	+8.1%	▲5.87	▲11.5%
1株あたり 配当(円)	18	16	15	+1	—	▲2	—

◆売上高：計画比マイナス

前期より続く中国事業再編の影響を
比較的堅調な国内事業でカバー

◆営業利益：計画比プラス

国内事業の採算悪化を予測し、ほぼ計画どおりに着地

2-2.平成29年3月期 取扱製品群別決算概要

(単位：百万円)

取扱製品群		H28.3期	H29.3期	構成比	期初計画	計画比 差異	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	5,067	5,212	35.6%	4,860	+352	+145	+2.9%
	大型精密機器	3,484	3,049	20.9%	2,890	+159	▲434	▲12.5%
	医療機器	2,143	2,067	14.1%	2,050	+17	▲75	▲3.5%
	工作機械	2,816	2,798	19.1%	3,160	▲361	▲17	▲0.6%
	その他	2,137	1,498	10.2%	1,770	▲271	▲638	▲29.9%
	合 計	15,647	14,626	100.0%	14,730	▲103	▲1,020	▲6.5%

◆小型精密機器：計画比プラス

- ・通信機器において複数の案件が終了したことにより減収を見込んだものの、当期に航空貨物の取扱増に加え、計測機器の輸出が増加したことにより計画比プラス

◆大型精密機器：計画比プラス

- ・無線通信機器の顧客における事業構造改革の影響を受け減収を見込んだものの、当期に半導体製造装置増産に伴う輸出増により計画比プラス

◆医療機器：計画比プラス

- ・大型医療機器の荷動き減少が見込まれ、当期は新規顧客開拓により、ほぼ計画どおり

◆工作機械：計画比マイナス

- ・輸出の大幅な回復による増収を見込んだものの、当期に海外需要が盛り上がり、計画比大幅マイナス

◆その他：計画比マイナス

- ・H28.3期中国子会社譲渡に伴う減収を予測したが、当期に別の中国子会社譲渡と清算を行ったことにより、マイナス幅拡大

H29.3期 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小 型 精 密 機 器	○
大 型 精 密 機 器	—
医 療 機 器	—
工 作 機 械	△
そ の 他	—

売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

2-3.平成29年3月期 セグメント別決算概要

(単位：百万円)

	セグメント	H28.3期	H29.3期	構成比	期初計画	計画比 差異	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	梱包事業	10,974	10,362	70.8%	10,410	▲47	▲612	▲5.6%
	運輸事業	2,486	2,200	15.0%	2,260	▲59	▲286	▲11.5%
	倉庫事業	1,914	1,802	12.3%	1,800	+2	▲111	▲5.8%
	賃貸ビル事業	271	261	1.8%	260	+1	▲9	▲3.7%
	合 計	15,647	14,626	100%	14,730	▲103	▲1,020	▲6.5%
セグメント 利益	梱包事業	1,043	1,041	67.7%	910	131	▲2	▲0.2%
	運輸事業	78	46	3.0%	125	▲78	▲32	▲40.7%
	倉庫事業	361	372	24.2%	400	▲27	+10	+3.0%
	賃貸ビル事業	82	77	5.0%	75	+2	▲4	▲6.1%
	合 計	1,566	1,538	100.0%	1,510	+28	▲28	▲1.8%

◆梱包事業：売上 計画比マイナス/セグメント利益 計画比プラス

- ・ H28.3期に中国子会社譲渡に伴う減収及び無線通信機器の顧客における事業構造改革の影響を受け減収を予想したが、当期に別の中国子会社譲渡と清算を行ったことにより売上はマイナス幅拡大
- ・ しかし赤字体質からの改善が進み、セグメント利益はほぼ前年並みを確保

◆運輸事業：売上 計画比マイナス/セグメント利益 計画比マイナス

- ・ 無線通信機器の顧客における事業構造改革の影響を受け減収予想に加え、大型医療機器の荷動き減少及び運輸事業再編の影響もあり売上、セグメント利益ともに計画比マイナス

◆倉庫事業：売上 計画比プラス/セグメント利益 計画比マイナス

- ・ 計画通り横浜地区にて賃借案件減少による減収を一部成田地区他賃貸案件増によりカバー
- ・ 東北地区にて自家倉庫の一部が空いたことによりセグメント利益は計画比マイナス

2-4.平成29年3月期 地域別売上高決算概要

(単位：百万円)

	H28.3期	H29.3期	構成比	期初計画	計画比 差異	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	14,614	13,963	95.5%	13,814	+149	▲651	▲4.5%
中 国	744	237	1.6%	459	▲222	▲507	▲68.1%
米 国	290	426	2.9%	457	▲31	+136	+46.9%
合 計	15,647	14,626	100.0%	14,730	▲103	▲1,020	▲6.5%

◆中国：計画比マイナス

- ・ H28.3期華南地区の中国子会社譲渡に伴う減収を予想したが、当期に華東地区において別の中国子会社譲渡と清算を行い、包装資材の企画設計・販売から、梱包を含む国際物流業へ事業を再編、集中したことにより計画比マイナス幅拡大

◆米国：計画比マイナス

- ・ スチール梱包業務の本格稼働や調達物流の推進強化を見込んだものの、期の終盤に顧客生産計画のずれこみがあり、計画比マイナス

2-5.連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	H28.3期	H29.3期	前期比 増減	負債 純資産の部	H28.3期	H29.3期	前期比 増減
流動資産	5,830	4,863	▲967	流動負債	4,167	3,700	▲467
有形固定資産	12,596	12,098	▲498	固定負債	9,055	7,993	▲1,062
無形固定資産	134	105	▲29	負債合計	13,222	11,693	▲1,529
投資その他の資産	1,708	1,757	+49	純資産合計	7,047	7,130	+83
固定資産合計	14,439	13,960	▲479				
資産合計	20,269	18,823	▲1,446	負債・純資産合計	20,269	18,823	▲1,446

◆有利子負債返済に伴う現金及び預金の減少

- ・[1年内償還予定の社債]1億 7百万円を返済
- ・[長期借入金] 7億85百万円を返済したことにより負債が減少

◆これにより、流動資産である[現金及び預金] 9億60百万円が減少

2-6.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	H29.3期	主な要因
期首残高（H28年4月1日）	2,384	
期中増減額	▲960	
営業活動によるキャッシュフロー	+669	税金等調整前当期純利益や減価償却費による資金の留保等によりプラス
投資活動によるキャッシュフロー	▲253	固定資産の取得等による支出
財務活動によるキャッシュフロー	▲1,355	有利子負債の減少や自己株式の取得による支出等によりマイナス
換算差額	▲20	
期末残高（H29年3月31日）	1,424	

3. 平成30年3月期 決算見通し

3-1.平成30年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	H26.3期	H27.3期	H28.3期	H29.3期	H30.3期 計画	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	17,062	17,830	15,647	14,626	14,800	+173	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	533 (3.1%)	565 (3.2%)	769 (4.9%)	627 (4.3%)	690 (4.7%)	+62	+10.0%
経常利益 (経常利益率)	344 (2.0%)	385 (2.2%)	627 (4.0%)	478 (3.3%)	570 (3.9%)	+91	+19.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (当期純利益率)	108 (0.6%)	126 (0.7%)	305 (2.0%)	258 (1.8%)	340 (2.3%)	+81	+31.4%
R O E (自己資本利益率)	1.6%	1.8%	4.4%	3.7%	4.8%	+1.1pts	—
1株あたり 当期純利益(円)	18.01	21.13	50.90	45.03	59.19	+14.16	+31.4%
1株あたり 配当(円)	13	16	18	16	22	+6	—

◆収益：増収増益の見通し

- ・赤字の中国事業の整理・再編が一段落し、グループ全体の収益向上に向けた基盤整備に注力
- ・次期成長に向けた製品群、セグメントへ経営資源を集中していく

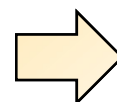
3-2.平成30年3月期 取扱製品群別業績予想

(単位：百万円)

取扱製品群		H28.3期	H29.3期	H30.3期 計画	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	5,067	5,212	5,660	38.2%	+447	+8.6%
	大型精密機器	3,484	3,049	2,740	18.5%	▲309	▲10.2%
	医療機器	2,143	2,067	2,100	14.2%	+32	+1.6%
	工作機械	2,816	2,798	3,070	20.7%	+271	+9.7%
	その他	2,173	1,498	1,230	8.3%	▲268	▲17.9%
	合 計	15,647	14,626	14,800	100.0%	173	+1.2%

H29.3期 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小 型 精 密 機 器	○
大 型 精 密 機 器	—
医 療 機 器	—
工 作 機 械	△
そ の 他	—



売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

H29.3期売上総利益率水準を
ベースとしたH30.3期の水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小 型 精 密 機 器	→
大 型 精 密 機 器	→
医 療 機 器	→
工 作 機 械	↑
そ の 他	↑

3-3.平成30年3月期 取扱製品群別業績予想

(1) 小型精密機器/大型精密機器

※庫内OP（庫内オペレーション）
…倉庫内の入在庫業務や管理

	庫内OP	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
小型精密機器	○	○	◎	○	○	△
大型精密機器	○	○	◎	○	○	△

【小型精密機器】

◆売上高：増収（前期比+447百万円 増減率+8.6%）

◆総利益率：前期並み

- ・成田地区における国際航空貨物の新規取り込み（庫内オペレーション、保管、流通加工中心）により増収の見通し
- ・成田地区での人員の効率化、資源の有効活用を行い、原価削減に努める

【大型精密機器】

◆売上高：減収（前期比▲309百万円 増減率▲10.2%）

◆総利益率：前期並み

- ・無線通信機器の荷動き減少及び顧客の事業構造改革の影響継続により減収の見通し
- ・人員配置の見直しにより利益率の維持を目指す

3-3.平成30年3月期 取扱製品群別業績予想

※庫内OP（庫内オペレーション）
…倉庫内の入出庫業務や管理

(2) 医療機器

	庫内OP	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
医療機器	△	◎	◎	○	—	○

◆**売上高**：微増（前期比+32百万円 増減率+1.6%）

◆**総利益率**：前期並み

- ・新規顧客開拓を進めるとともに、自社倉庫における省力化・保管面積縮小を目的とした自動倉庫型ピッキングシステムの導入を推進

(3) 工作機械

	庫内OP	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
工作機械	—	—	◎	— ⇒ △	○	○

◆**売上高**：増収（前期比+271百万円 増減率+9.7%）

◆**総利益率**：前期より改善

- ・米国での新機種生産量増により増収増益の見通し

3-4.平成30年3月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

セグメント		H28.3期	H29.3期	H30.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	梱包事業	10,974	10,362	10,570	71.4%	+208	+2.0%
	運輸事業	2,486	2,200	2,100	14.2%	▲100	▲4.5%
	倉庫事業	1,914	1,802	1,850	12.5%	+48	+2.6%
	賃貸ビル事業	271	261	280	1.9%	+18	+7.0%
	合 計	15,647	14,626	14,800	100.0%	+173	+1.2%
セグメント 利益	梱包事業	1,043	1,041	1,070	65.6%	+28	+2.7%
	運輸事業	78	46	60	3.7%	+13	+28.4%
	倉庫事業	361	372	390	24.1%	+17	+4.7%
	賃貸ビル事業	82	77	95	6.5%	+18	+22.7%
	合 計	1,566	1,538	1,615	100.0%	76	+5.0%

◆梱包事業：増収増益

- ・中国事業再編や無線通信機器の荷動き減少を見込むも、成田地区の航空貨物取扱増加や海外工作機械取扱増により増収増益の見通し

◆運輸事業：減収増益

- ・無線通信機器及び医療機器取扱量減少により減収を見込むも、自社車両の効率的配車を行うことで増益の見通し

◆倉庫事業／賃貸ビル事業：ほぼ横這い

- ・成田地区の航空貨物保管及び賃貸ビル満床により増収増益の見通し

3-5.平成30年3月期 地域別売上高予想

(単位：百万円)

	H28.3期	H29.3期	H30.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	14,614	13,963	14,000	94.6%	+37	+0.3%
中 国	744	237	120	0.8%	▲117	▲49.4%
米 国	290	426	680	4.6%	+254	+59.6%
合 計	15,647	14,626	14,800	100.0%	+174	+1.2%

為替レート H30.3期 1ドル=110円 1人民元=16円

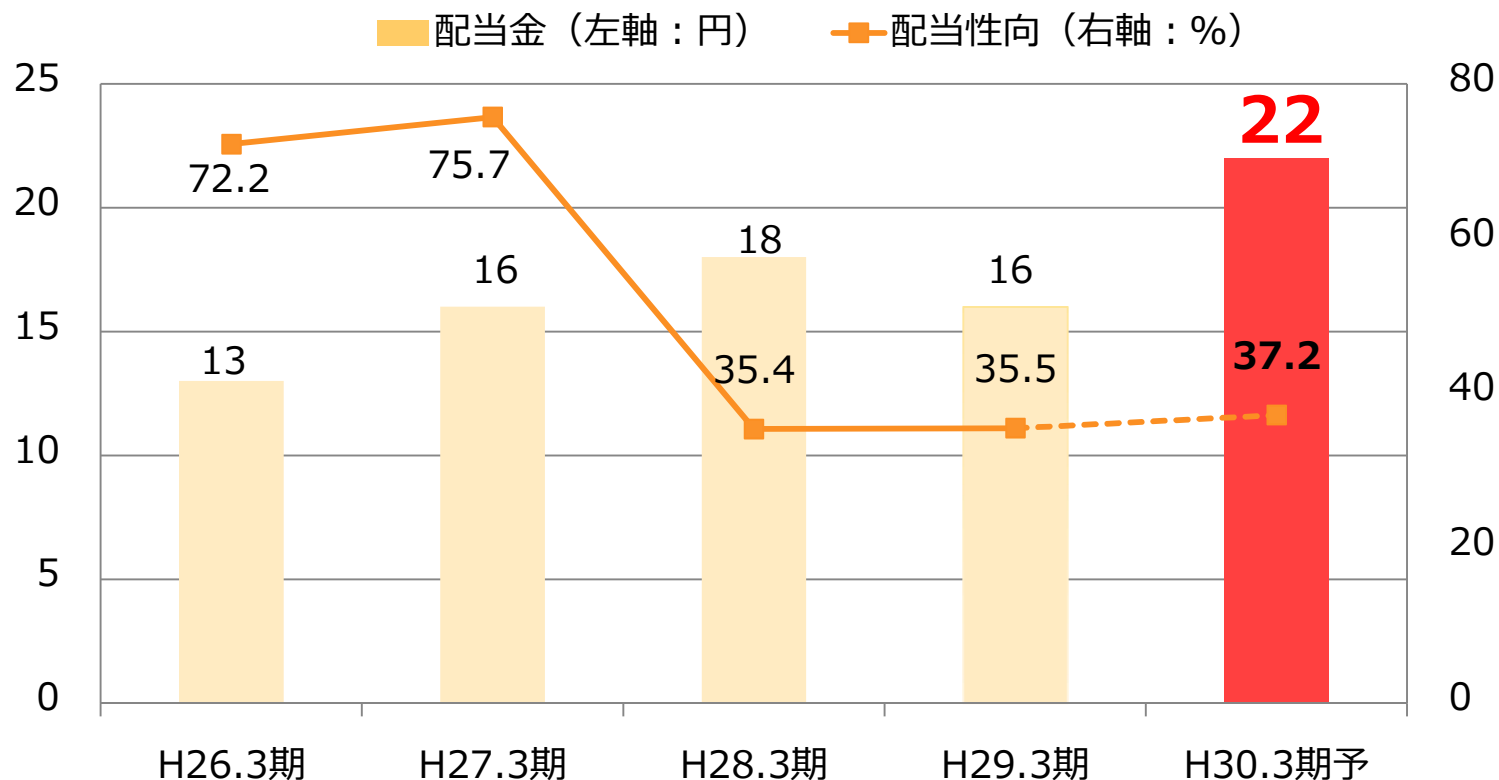
◆中国：減収

- ・ H30.3期をボトムに、上海の子会社にて工作機械をターゲットとし梱包技術を活かした国際複合一貫輸送の営業展開を図り、収益向上を狙う
- ・ 材料費等の更なる経費削減を進め、黒字化を計画

◆米国：増収

- ・ 工作機械のスチール梱包と調達物流の取扱拡大、これに絡めた国際複合一貫輸送の拡大を図り、増収の見通し

3-6.配当について



◆連結配当性向を30%程度を基本とし検討
当期は1株あたり16円を予定

◆H30.3期：1株当たり22円を予定
普通配当 20円／創業70周年記念配当 2円

4. 中期経営計画と取り組み

4-1.中期経営計画の概要

◆新ビジョン(中長期的に目指す姿)

オペレーションから ソリューションへ

◆経営目標

期 間	H32年3月期	最終目標	(参考)H29.3期	伸び率
H29年4月～ H32年3月	売 上 高	16,500百万円	14,626百万円	+12.8%
	営 業 利 益	950百万円	627百万円	+51.5%
	営業利益率	5.8%	4.3%	+1.5pts
配当方針	R O E	6.3%	3.7%	+2.6pts
30%目途				

4-1. 中期経営計画の概要

【国内物流事業】

1. 精密機械／医療機器

- ・ ノンアセット型新拠点を開設
- ・ 「立地」×「ソリューション営業」×「庫内オペレーションの高度化」で他社と差別化

2. 工作機械

- ・ 現キャパシティで既存顧客の取引深耕により収益を維持

【海外物流事業】

1. 顧客に合わせたカスタムメイドの 国際輸送ネットワーク構築

2. 当社の梱包技術で事業拡大

4-2.取り組み中の事例

活 動 項 目	活 動 事 例
事業運営の 基盤強化	◆7月 統括組織を新設予定 ・取扱製品群別の統括部を設置 各事業ごとのシナジーを活かし、顧客を開拓 ・ソリューション営業に特化した統括部を設置 組織を横断し、効果的かつ効率的に新規顧客に積極アプローチ(新規顧客開拓が専管事項)
I T 投資による 省力化、効率UP の実現	◆自社倉庫における省力化・保管面積縮小を目的とした自動倉庫型ピッキングシステムの導入を推進 ・システム導入効果について顧客と検証を実施中。
ノンアセット型 新拠点開設	◆東京湾岸エリア、京浜エリアを検討 ◆1顧客につき500坪～1,000坪を賃貸すること想定し、1箇所ではなく、複数拠点を検討

4-3.TOPIX



ワールドスター賞受賞

世界包装機構 WPO

(World Packaging Organisation)

パッケージングコンテスト

「World Star 2017」の輸送部門にて

ワールドスター賞受賞

« 検品工程低減・RFIDタグを利用した
リターナブルBox »

※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463



5. Appendix

[参考]事業概要

梱包事業

- 小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐に渡り対応
- 製品形状や特質・送り先（国内外）・輸送状況を考え、製品の品質を保つ
- コスト的にも最善な梱包形態を提供

運輸事業

- 精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に低コストで配送
- 協力会社のサポートによる全国配送も可能
- 引越など輸送に関わる幅広い業務を行う

倉庫事業

- 空調を完備した快適な環境
- 24時間フルタイム管理・警備対応
- 梱包工場としての機能を有しており、流通加工、開梱並行処理拠点として機能していることに加えて、取扱製品に応じた設備を有する

国際物流

- ・ 保税蔵置場に梱包工場を併設
- ・ 梱包から保税蔵置・通関そして港湾・空港への輸送にいたるまで自社で対応
- ・ NVOCC（外航利用運送事業者）として船会社からスペースを買い取ることで、目的地までの最適な輸送方法を、一貫した運用責任の下、提供する

3PL

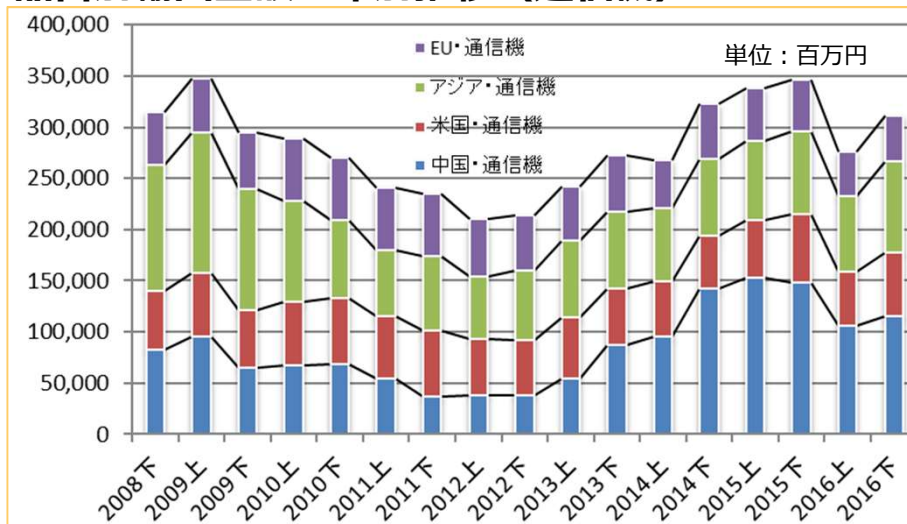
- ・ 物流改革の提案を行い、物流業務を包括的に引受ける
- ・ 高度な梱包技術と包装設計を駆使し、自社内での梱包、輸配送、保管、在庫管理、保税通関、エンドユーザーまで届けている

包装設計

- ・ 取扱製品が多岐に渡るため、様々な包装技術・技法及び材料を採用している
- ・ 地球環境保護問題に対応した包装技術・技法の改善、向上を図っている
- ・ 常に新包装技術の開発を行っている

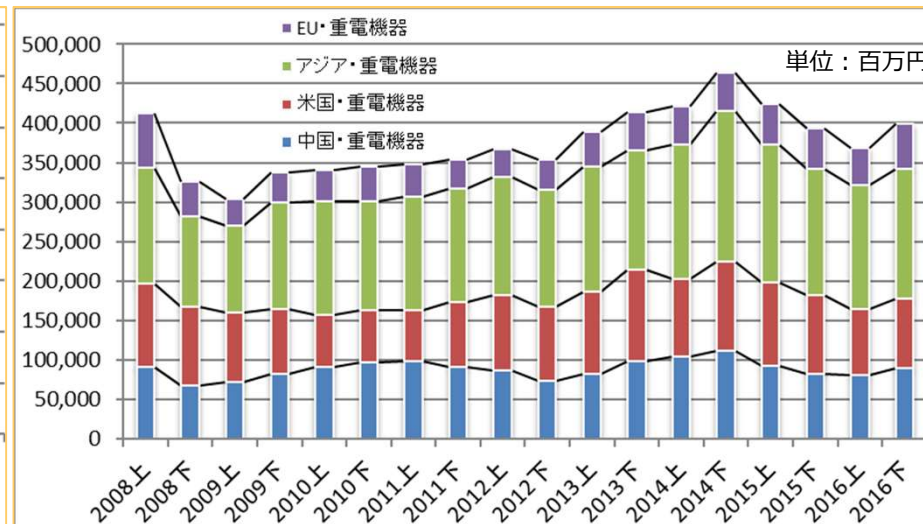
[参考]平成30年3月期 業績予想／外部環境

品目別輸出金額 年別推移（通信機）



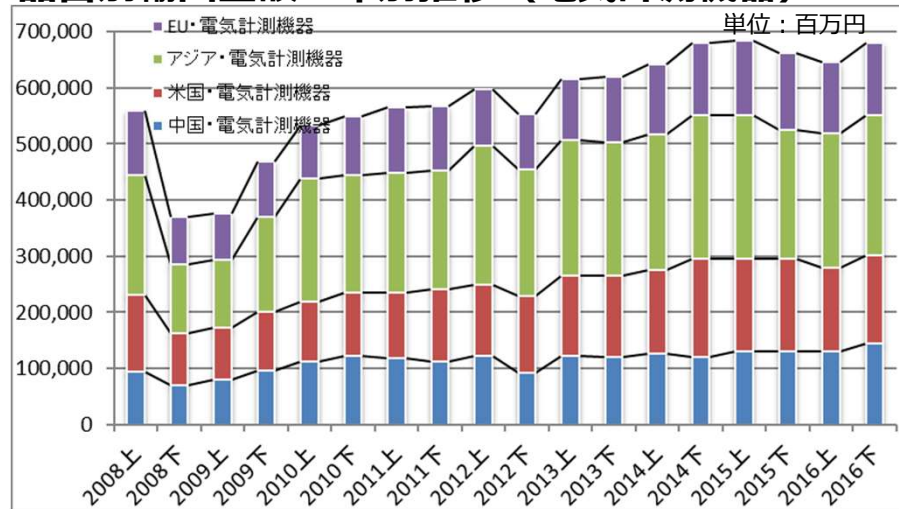
※通信機…レーダー、航行用無線機器及び無線遠隔制御機器
電話機（携帯回線網用その他の無線回線網用の電話含む）など

品目別輸出金額 年別推移（重電機器）



※重電機器…トランスフォーマー、電動機及び発電機など

品目別輸出金額 年別推移（電気計測機器）

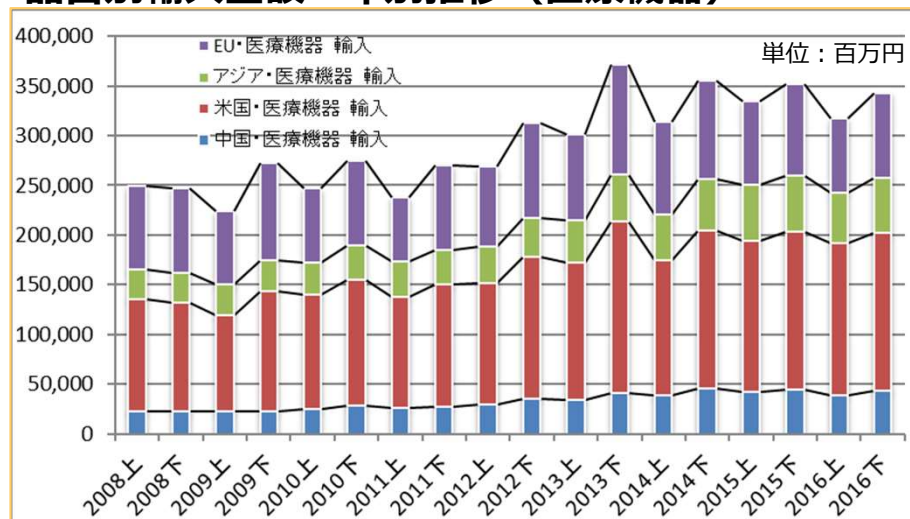


2016（H28年）下期は各品目とも回復傾向であったが、海運市況の低迷や地政学的なリスクにより、大幅な回復は見込まず

※電気計測機器…マイクロメーター、電気用計器など

[参考]平成30年3月期 業績予想／外部環境

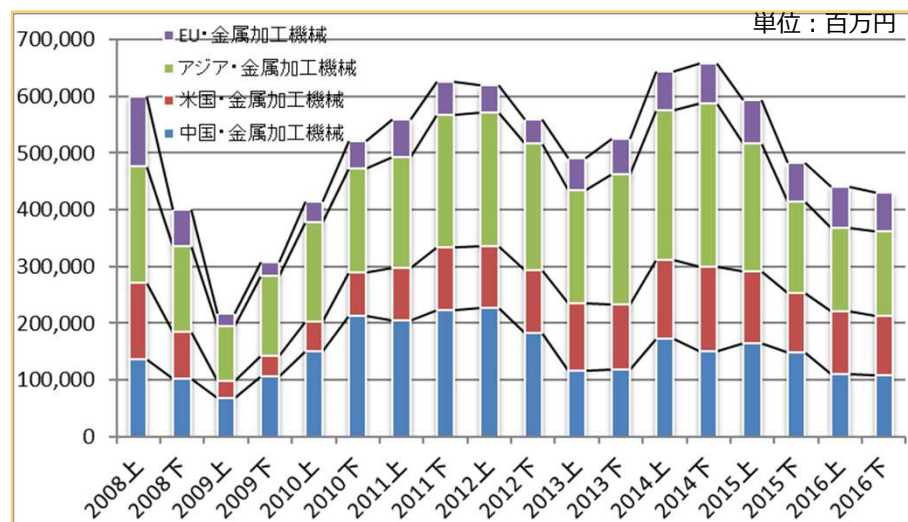
品目別輸入金額 年別推移（医療機器）



- ・医療の高度化や高齢化に伴い、医療機器の稼働率向上や検査需要の増加への対応に伴い国内需要は拡大
- ・輸入貨物は伸び悩み傾向だが、弊社取扱は安定的に推移するものと予想

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

品目別輸出金額 年別推移（金属加工機械）



- ・2016年（H28年）にダウンしたまま、横ばいで推移するものと予想
- ・米国は政策次第ではあるが、新モデルの投入など明るい兆しもあり

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなど
その他の加工機械